

2012年7月12日
日本興亜損害保険株式会社
ジャパン・フォー・サステナビリティ(JFS)

特別アンケートの結果発表

世界の子どもたちの声を「リオ+20」に届けました ～世界 12 カ国の子どもたちから合計 145 件の声が寄せられました～

日本興亜損害保険株式会社(社長:二宮雅也)とNGOジャパン・フォー・サステナビリティ(代表:枝廣淳子)が共同で運営するコミュニティサイト「未来クル・MIRACLE—世界とつながるキッズコミュニティ」では、子どもたちが地球の未来に対してどのような期待を抱いているか、地球の未来のためにいちばん何を伝えたいかについてのアンケートを実施しました。

その結果、世界 12 カ国の子どもたちから合計 145 件の声が寄せられ、この子どもたちの声を6月 20～22 日にブラジル・リオデジャネイロで開催された「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」に届けました。

*「未来クル・MIRACLE—世界とつながるキッズコミュニティ」(<http://miracle-kids.net>)は、日本の環境情報を世界 191 カ国に発信しているNGOジャパン・フォー・サステナビリティと日本興亜損保が 2011 年7月から運営する、小中学生を対象としたオンライン上のコミュニティサイトです。

<アンケート概要>

世界の子どもたちに向けて次の問いを投げかけ、Q1については4択式で、Q2について自由記入式で回答を募集しました。

Q1. 地球の未来について、どんなことを期待していますか？

Q2. 地球の未来のために、あなたが今、世界の人にいちばん伝えたいことは？

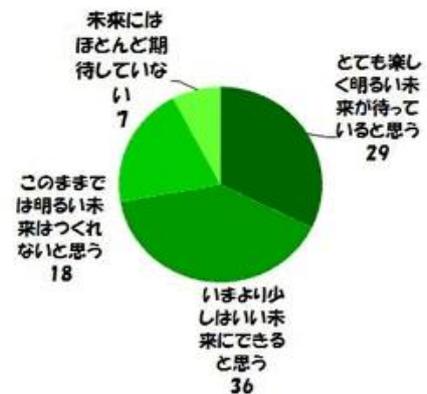
5月16日～6月20日の約1カ月の募集期間で、世界各地の子どもたちから個性的な声が多数寄せられました。回答内容は以下のとおりです。

<回答内容>

●Q1 「地球の未来について、どんなことを期待していますか？」

日本、ルーマニア、デンマーク、インド、ドイツ、アメリカ、エジプト、中国、エクアドルより合計 90 名から以下の回答がありました。

- ・ とても楽しく明るい未来が待っていると思う 29 名
- ・ いまより少しはいい未来にできると思う 36 名
- ・ このままでは明るい未来はつくれないと思う 18 名
- ・ 未来にはほとんど期待していない 7 名



90 名中「とても楽しく明るい未来が待っていると思う」「いまより少しはいい未来にできると思う」が65名あり、全体的に、未来に明るい期待を持っている人が多いことがわかります。

●Q2 「地球の未来のために、あなたが今、世界の人にいちばん伝えたいことは？」

この問いに対しては、日本、オーストラリア、インド、ケニア、中国、ハンガリーより合計 55 名から回答がありました。

地域を問わず多かった回答は、川や山など自然環境とそこに住む生き物たちを守りたいというものでしたが、原発や戦争に触れ、平和を望む声も寄せられました。回答の一部を紹介します。

○ 自然環境や生き物を守りたい

- ・ 私が伝えたいのは、木や動物も私たちの仲間だということ。私たち、あまりにあわただしくして、仲間を助けられないの？ 手遅れになる前に、みんなで協力して何かする必要があります。(14歳、インド)
- ・ 動物を殺さないで、森を守ろう。密漁者は処罰して。自分たちの「家」を守ろう。だってずっとここに暮らしたいから。(14歳、ハンガリー)

○ 公正で平和な社会をつくりたい

- ・ 貧富の差をなくして、戦争は絶対にさせたくない。みんなで仲良く協力する。(13歳、日本)
- ・ 戦争なんて、この世界にあっちゃだめだ。(13歳、ハンガリー)
- ・ 核爆弾は、はい止にしましょう！！ 日本はげんぱつ再開に絶対反対。(14歳、日本)

○ 未来への希望

- ・ 明るい世界になるように、現代とくらべていろいろとすごいものをつくりたい！ (9歳、日本)
- ・ たくさんの人が、地球がもっと暮らしやすいところになるように何か始めてほしい。(12歳、ケニア)

<国連持続可能な開発会議「リオ+20」での発表>

「未来クル・MIRACLE」事務局のスタッフが「リオ+20」の会場に赴き、主に以下の機会を利用して子どもたちの声を届けるとともに、各国からの参加者に英文パンフレットを配布してプロジェクトのPRに務めました。

●「日本パビリオン」での発表

「日本のグリーン・イノベーション―復興への力、世界との絆」をテーマとして、外務省を中心に官民協力で設置された「日本パビリオン」において、ジャパン・フォー・サステナビリティも一員として活動した「リオ+20 地球サミットNGO連絡会」主催のセミナーで、寄せられた子どもたちの声をビデオレターとして発表しました。



●メイン会場のメッセージボードでの発信

本会議場入り口付近に設けられたメッセージボード用の壁に、他国のプロジェクトとともに、未来クル・MIRACLEに寄せられたメッセージを英語で貼り出し、各国からの参加者にアピールしました。

